



安心・認める

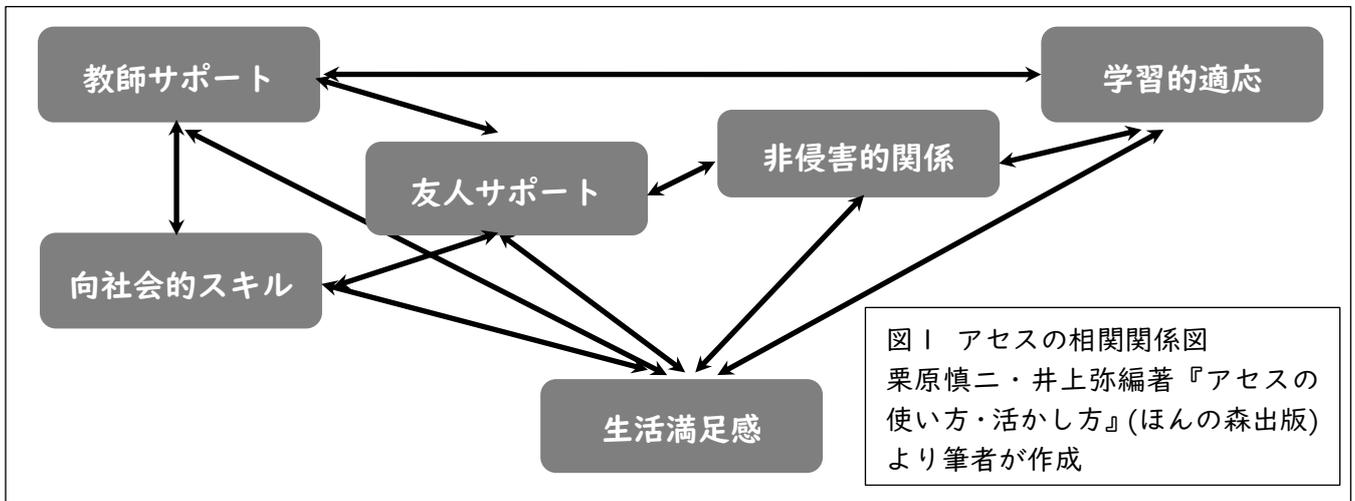
考える部便り No.6

子どもの学習に教師はどうかかわれるか

毎日子どもたちの学習にかかわっている教師にとって、「子どもの学習にどうかかわれるか」と問われても、返って難しいかもしれません。昨年度も紹介したアセスを通して考えていきます。アセスは「6領域学校環境適応感尺度」(Adaptation Scale for School Environments on Six Spheres)の略称です。学校適応感は、次の6因子に分かれると定義されています。

- ① 生活満足感因子(生活全般に対して満足や楽しさを感じている程度)
- ② 教師サポート因子(教師との関係が良好だと感じている程度)
- ③ 友人サポート因子(友人関係が良好だと感じている程度)
- ④ 向社会的スキル因子(友達との関係をつくるスキルを持っていると感じている程度)
- ⑤ 非侵害的関係因子(無視やいじめなど、拒否的・否定的な友達関係がないと感じている程度)
- ⑥ 学習的適応因子(学習の方法が分かり、意欲も高いなど、学習が良好だと感じている程度)

これら6因子の相関関係をまとめたものが下の図です。



6因子の相関関係で、今回注目するのは学習的適応との相関です。年度当初、学習的適応と教師サポートは相関がありますが、年度後半を過ぎると、図1の一番上の矢印は消えてしまいます。そうなる、強い相関があるのは非侵害的関係になります。これは、「いじめられている子は、学習どころではなくなり、学習適応が下がる可能性が高いこと」「学習で困っている子はいじめられる可能性が高いこと」などを示唆しています。年度始に子どもたちが学級に安心していられるようにする重点期間としたのは、この考え方にに基づきます。考える部では、他の部と連携しながら、年間を通して「安心していられる安全な教室環境・学校環境」づくりに取り組んでいきます。昨年度同様、まずは、話し合いのときのマナーやクラス会議の「ハッピー・サンキュー・ナイス」を提案します。ぜひ各学級で挑んでほしいです。(文責：植田一宏)